

# レポート・論文とは どのようなものか

# はじめに

ここでは…

レポートや論文を書き始める前におさえておくべき、  
いくつかのポイントを説明します。

- I. レポート・論文とは？
- II. レポートの種類
- III. レポート・論文を書く前に

みなさんは、  
レポートを書くとき、いきなりパソコンを立ちあげて  
書き始めようとしていませんか？

レポートや論文を書くには、  
レポートや論文がどのようなものか分かったうえで、  
実際に書き始める前に下準備しておくことが大切です。

# 1. レポート・論文とは？

# レポート・論文とは？

何らかの問題について

「データを根拠として、

ひとつの主張を論証によって導くもの」

⇒ データの羅列だけ…×

そのデータから  
何が言えるの？

自分の主張だけ…×

どうしてそう言える  
の？根拠は？

# レポート・論文とは？

## データとは…

- ・ 実験や調査の結果
  - ・ 書籍や論文や新聞など（文献）に書かれていること
- …など（レポートでは、授業資料もデータに含まれます）

レポートや論文では、こうしたデータを、自身の主張の「根拠」や「裏付け」として用います。

# レポート・論文とは？

## 感想文との違い

- **感想文**：自分が思ったことを書く。  
感情がうまく伝わるように書く。  
読み手の感情に訴える。
- **レポート・論文**：  
根拠のある主張を論理的に展開する。  
誤解の余地のない正確な文章表現を心がける。  
読み手の理性に訴える。

# レポート・論文とは？

## レポートと論文の違い

**レポート**：新奇性は必要ない。

レポートで見られていることは…

- （授業を通して）正確な知識が身についているか
- 自身の考えを論理的に導くことができているか



# レポート・論文とは？

**論文**：テーマや問いの設定、議論の観点、論じ方などにオリジナリティがある。

論文に求められることは…

- その分野についての正確な知識
- 自身の考えを論理的に導くことができているか
- ★ 新たな知見を加えること
- ★ 論文によって明らかにされたことに、学問的あるいは社会的な意義があること

# レポート・論文とは？

まとめると…

- ・あるテーマの問題について、
- ・調べたことを根拠として用いながら、
- ・ひとつの筋が通った、
- ・自分の意見を述べたもの

が、レポートや論文であると言えます。

## II レポートの種類

## II レポートの種類

レポートでは…

書くべき課題があらかじめ与えられています。

→はじめに、何が求められているのかを確認する。

A：調べて書く？自分の主張を書く？

B：大きなテーマ？小さなテーマ？

## II レポートの種類

A：調べて書く？自分の主張を書く？

### 調べて書く場合

例：千葉太郎『環境問題と日本の未来』を読んで、現代日本で生じている問題を中心に、その内容を4000字程度でまとめなさい。

⇒調べたことをまとめる（報告型レポート）

例：どのような問題があって、どのような研究がされているか  
どのような問題について、何を根拠に、何が主張されているか

⇒調査が十分であることと、まとめの正確さが必要。

## II レポートの種類

A：調べて書く？自分の主張を書く？

自分の主張を書く場合

例：授業で取りあげた〇〇に関するさまざまな議論をまとめ、その対立点を整理したうえで、自身の見解を論じなさい。

⇒最終的に自分の主張を導く（論証型レポート） \* 報告型との混合も

⇒主張そのものよりも、「主張に至る過程」が重要。

## II レポートの種類

B: 大きなテーマ? 小さなテーマ?

大きなテーマが与えられた場合 → **小さなテーマに絞る**

- 例 「環境問題について、自身の考えを述べなさい」

→ 「高度経済成長期における水質汚染とその解決について」

⇒ スライド資料2のステップ①を通してテーマを絞る。

※ もともとのテーマから外れてしまっていないか注意する。

## II レポートの種類

B：大きなテーマ？小さなテーマ？

小さなテーマが与えられた場合

- 例「水俣病の公害認定をめぐる歴史的経緯をまとめたうえで、現代社会を生きる水俣病患者が抱える問題を指摘しなさい。」

⇒該当する文献を読んで調べる。

\* 文献の探し方については「ネットで探す・調べる」タブに説明があります。

⇒スライド資料2（レポート・論文の執筆手順）のステップ②へ



# III レポート・論文を書く前に

## III レポート・論文を書く前に

レポート・論文を書く際には…

読んでもらい、理解してもらうために書く

ということを意識しましょう。

レポートや論文を書くからには、読み手に読んでもらい、伝えたいことを正確に伝えられなくては、意味がありません。

### III レポート・論文を書く前に

そのためには、

- i. 下準備をしてから書く
- ii. 読み手を想定しながら書く

## III レポート・論文を書く前に

### i. 下準備をしてから書く

#### - **さまざまな文献を読んで書く**

…文献を読むことで、自分の問題関心が明確化される。  
読んだ文献が「根拠」や「裏付け」になる。

レポートは、授業内で得られた情報だけで書かない  
という場合がほとんどです。

⇒まずは、文献を探して手に入れる必要があります。

## III レポート・論文を書く前に

### i. 下準備をしてから書く

#### - アウトラインを作ってから書く

…ひとつの筋の通った主張をするために、あらかじめ、議論の展開・道筋を考えて、書き出しておく。

## III レポート・論文を書く前に

### ii. 読み手を想定しながら書く

レポートや論文は、会話による説明の場合とは異なり、相手の反応を見ながら説明を加えたり、説明の仕方を変えたりすることができません。

- ⇒ ・文章表現に注意を払う
- ・相手が何を知っていて、何を知らないのかを考える
- ・相手の疑問や反論を想定しながら書く

### III レポート・論文を書く前に

以上をふまえたうえで、気をつけること

- ・盗用をしない、盗用になってしまわない
- …他者の著作などを、適切に用いながら（引用）、  
自分の言葉で、自分の主張を書くようにしましょう。

\*引用方法についての説明は、「文献を引用する」にあります。